

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173600719		
法人名	株式会社ふるさとコミュニティ		
事業所名	グループホーム ふるさと (青い鳥ユニット)		
所在地	北海道苫小牧市豊川町2丁目1番2号		
自己評価作成日	平成31年1月31日	評価結果市町村受理日	平成31年3月18日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.hlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail.2018.022_kan=true&JigyosyoCd=0173600719-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成31年2月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・外出支援を通して地域との繋がりが途絶えることなく、認知症になっても安心して日常生活を送って頂けるよう援助し、各々のレベルに沿った自立支援に努めている。又、実習生の受け入れや施設見学、町内会の参加、小学生とのふれあいを通して認知症の理解を深める事が出来る様努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム ふるさと」は、JR苫小牧駅から車で10分ほどの住宅街に位置し、国道に沿った遊歩道に面して建っている2ユニットの事業所である。周囲に公園やホームセンター、スーパーなどがあり生活の利便性に優れている。家具店を改造した建物は2階の会議室を中心に両ユニットがあり、共用空間は全体的に広々とした造りで開放感がある。当事業所は開設14年が経過し、昨年法人の運営主体が変わり新たな体制の下、管理者と職員は運営理念と各ユニットのケア理念を共有し、馴染みの環境を大切に地域住民と交流する機会を日々検討しながら熱心に取り組んでいる。利用者は地域のイベントで「えがおの花咲く写真展」を鑑賞したり、タスキをつなぐ「RUN伴」にも参加している。福祉学校の実習生の他、傾聴ボランティアやオカリナ演奏と一緒に歌うなど外部の人と触れ合う機会が多く、手芸教室で作った作品が居室などに飾られている。職員は研修で学んだ内容を報告書に書くことで理解を深めており、職員間で情報を交換して介護計画を作成し、個別の意向に沿って趣味の友人の来訪や家族の送迎で友人と外食をしたり、知人宅に行くなど馴染みの関係を継続して支援している。食事では献立を中止してメニューの日を作り、ジギスカンやマグロの漬け丼、イベントで焼き鳥や今川焼きを楽しむなど食を豊かにして提供している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(青い鳥ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念やユニット理念に基づいて共有し実践に繋げていくよう努めている	地域密着型サービスの意義を踏まえた運営理念に沿って各ユニットでケア理念を作成し、地域交流との文言を盛り込み実践につなげている。介護計画の見直し時に確認したり、理念を記載したカードを携帯して職員は内容を共有している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	季節ごとに町内会の行事や地域との交流を図っている	町内会の盆踊りに利用者も輪に入ったり、子供神輿の際にはお菓子を手渡して交流している。また近くの小学校5年生が授業の一環として来訪し、折り紙細工や歌などで交流している。毎月多彩なボランティアの来訪で楽しみごとが多い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等を通して認知症の理解や支援の方法を地域に向けて少しずつ活かせるようになってきている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度実施し取り組み状況等の報告や話し合い・意見交換を行いサービスの向上に努めている	町内会役員、地域住民、行政担当者との参加を得て事業所報告を中心にインフルエンザ、外部評価、防災などのテーマで意見を交換している。家族は2～4名の参加があり、活発な意見交換の中で寿司職人による出張にぎり寿司を取り入れている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者と連絡を密にし、サービスの取り組みなどを相談し、協力関係を築くようにしている。又、2ヶ月に1度の運営推進会議には地域住民、市の職員、包括支援センターの方にも参加して頂き取り組んでいる	書類提出時に事例などを相談しアドバイスを得ている。地域ケア会議に参加し情報を交換したり、ケアに活かすこともある。生活保護担当者の来訪時には状態を伝え、必要時には連絡などで関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化を定期的に取り組み実施し、施錠を含めて身体拘束をしないケアに全職員と共に取り組んでいる	適正化指針に基づき委員会を3か月ごとに開催し、全職員は議事録で内容を共有している。年に2回の内部研修で身体拘束禁止行為の確認や言葉遣いなどを学んでいる。研修内容を報告書にすることで理解を深めている。身体を拘束しないケアを行い、声のトーンにも注意し丁寧に対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	入職時に研修の時間を設け、学ぶ機会を持ち全職員で虐待防止に努めている		

グループホーム ふるさと

自己評価	外部評価	項目	自己評価(青い鳥ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	一部の職員のみで、まだ全職員が学べる機会を持っておらず、今後は全員が学んでいけるよう努めたいと考えている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、時間をかけ説明を行いご本人やご家族の不安や要望、疑問点などを聞きながら、理解と納得を図よう努めている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱の設置、外部の相談窓口を契約時に説明している。又、意見や要望は届いておりその都度職員間で共有し運営に反映させることが出来ている	家族の来訪時にケアや介護計画の意向を聞き、連絡事項などは個別の「支援相談経過記録」に記載している。今後は職員の気づきも含めて家族の思いを更に把握したいと考えている。またモニタリングを送る際に個別にお便りを作成し送付を予定している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	提案がある時は職員間で相談し意見をまとめて管理者に話をして聞いてもらうようにしている	毎月ユニット会議で利用者の状態や業務改善、連絡事項も含めて意見を交換している。用具や備品などの購入は内容によって対応方法を取り、現場が働きやすいように工夫している。管理者は業務の中で個別に職員の意見を聞く機会もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全職員が向上心を持って働けるよう話し合いの場を設け、職場環境や条件の見直し等に努め、働きやすい環境を心掛けている。又、個々の努力や勤務状況等も把握できている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部・外部での研修の参加を促し、学べる機会の確保に努め職員を育てる為の取り組みを行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全職員が交流できる機会はなかなか作れていないのが現状であるが、研修の参加等を通して取り組んでいけたらと考えている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(青い鳥ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	十分な時間と情報を元に、ご本人が困っている事等、要望を聞き安心して頂けるよう関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期に限らず、その都度で耳を傾けご家族様との連携を密にし、意見・要望・助言など聞ける時間を設け県警づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期の情報を元に必要な支援の見極めとご本人やご家族から要望などを聞き、他のサービスも含め必要か否かを検討し対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	同じ食事をし同じ空間で共に過ごす事で少しでも家族のような近い存在と思って頂けるよう関係を築いている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の関係を大切にし、家族と一緒に必要なケアを考えながら共に支えていける関係が築けるよう努めている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	来訪者(面会者)が来られた時は本人とゆったり過ごして頂けるよう対応し馴染みの方々との関係が途切れぬよう支援している	入居以前の暮らしや趣味などの友人が来訪したり、家族の送迎で友人との外食や、知人宅に行く方もいる。また家族と温泉や美容室などに出かけている。職員同行の買い物で好きな菓子を選ぶなど好みや趣味などが継続できるように、こまめに対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	時に利用者同士がソファで一緒にお茶を飲んだり次席でゆったり過ごしたりと適度に関りの時間が作れる様努めている		

グループホーム ふるさと

自己評価	外部評価	項目	自己評価(青い鳥ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	職員は入院された利用者への面会はあるが退去された方々との関係は途切れている。管理者は退去後の関係を継続する事ができている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	質問等の声掛けを行う事で希望や意向を聞けるよう努めている。意思の疎通が困難な方は表情や動きを観察し対応している	会話の中や、また表情から思いを把握している。利用開始時にセンター方式のアセスメント表から情報を把握しているが、今後はシートを活用し暮らしの習慣、趣味、嗜好などで定期的な更新を考えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴、これまでの環境等は一人ひとりファイルに綴りいつでも目を通す事が出来ているので、職員間で共有し把握できるようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの状態をしっかり観察して記録し、小さな変化にも気付けるよう努め、全職員で共有し把握できるようにしている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	より良く過ごして頂けるよう改善点はないか等を話し合い介護計画を作成しているが、全員でのモニタリングには至っていない	計画作成担当者を中心に日々の記録からモニタリングを行い、会議で意見を交換して6か月ごとに介護計画を作成している。日々の記録にサービス内容の実施と変化がある時は内容を記載し、モニタリングにつなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケア内容、変化など個別に記録し職員間で共有しながら実践に反映させているが、まだ十分に活かす事が出来ていない		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりに合った支援を受けられるよう柔軟な対応を心掛け、その時に必要であれば既存のサービスに捉われず可能な限りで対応している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のイベントやボランティアの方々との関わりを通して少しでも暮らしが豊かになって頂けるよう支援している		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への理解と納得は得ている。事業所との関係も築く事ができていて適切な医療が受けられるよう支援している。又、御家族対応で他院を利用されている方もいる	月2回、協力医療機関の訪問診療を受けている。かかりつけ医や専門的な他科受診は状況に応じて看護職員が同行している。受診内容は個人ファイルの「医療情報」に記載し経過を共有している。	

グループホーム ふるさと

自己評価	外部評価	項目	自己評価(青い鳥ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の変化が見られる時は看護師に相談し指示を仰ぎ、適切な対応が出来る様支援に努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との情報交換や相談に努め関係を密にし利用者が安心して治療出来る様対応している。又、関係者との関係づくりにも努めている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化や終末期に向けた方針、看取りについても説明しており、入居後その状態に使った段階で再度話し合いを行い、御家族・ご本人の意向に沿ったケアが選択出来るよう努め、支援に取り組んでいる	利用開始時に重度化した場合の対応に係る指針に看取りの考えを明記し、継続的な医療行為がない場合は看取りも可能な事を伝え同意を得ている。状態の変化時には関係者で方針を話し合い、調理の工夫で可能な限り対応し入院となっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	このような事態に備えての特別な訓練は具体的に行っておらず、実践には欠けている。全職員に実践力を身につけられるよう今後取り組んでいかなければと考えている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼・夜間想定で避難訓練は行っていて、地域との協力体制も築く事は出来ているが全職員が十分身につけているまでには至っていない	防災会社の下で日中を想定した訓練を2回とも自主訓練で実施している。昨年9月の地震の際に危険箇所や冬季も含めて備蓄品の見直しも行き、整備している。地震を想定し各ケア場面の対応について今後検討している。	非常災害時のマニュアルをもとに勉強会を行い、その際に地震を想定し、ケアの場面ごとにそれぞれの利用者の対応について話し合い、内容をマニュアルに追加して定期的に確認することを期待したい。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、不快にさせる事の無いよう言葉遣いにも十分注意し対応している。又、不適切ケアについても話し合い常に意識するよう努めている。	職員は介護職員業務研修や内部研修で言葉遣いを学んでいる。職員の言葉かけで気になる場合は、管理者が注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が難しい方には声掛けし希望や思いを汲み取っていきけるよう工夫している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者が生活しやすいように個人のペースを尊重し、見守りの中過ごして頂けるような支援を心掛けている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来る方には道具を用意する等し髪を整えて頂けるよう支援している		

グループホーム ふるさと

自己評価	外部評価	項目	自己評価(青い鳥ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりにあった形状 やとろみをつける等して食べやすいよう提供し、一緒に食事を楽しむことが出来る様支援しているが、一緒に準備等は出来ていない	法人グループ会社の栄養バランスの良い食事を提供し、誕生日は赤飯、名前入りケーキなど趣向を凝らしている。回転寿司やラーメン、イベントで焼き鳥や今川焼きを楽しんだり、戸外で食事を味わっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分不足を防ぐ為、こまめに提供したり飽きがこないよう種類を豊富に揃える等工夫し支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりに声掛けし行っている。又、必要に応じて見守りや介助を行い支援している		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレの訴えが少ない方には記録を確認して声掛け誘導を行い、トイレで排泄が出来る様支援している。又、一人ひとりの排泄パターンも把握できている	全員分の排泄チェックを行い記録している。排泄が自立している利用者が多い。なるべく日中は紙パンツ類を使用しないケアに努めている。トイレの声かけは本人の気持ちに沿う対応を心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘時は看護師や医師に相談し下剤の服用や腹部マッサージをして頂くなどの予防に取り組んでいる		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴を拒否される方もいるのでその時の気分なども汲み取り観察し、タイミングを見て声を掛ける等の工夫をし入浴を楽しんで頂けるよう支援している	午後の時間帯で曜日を問わず湯を沸かし、最低週2回以上、入浴している。本人の望まない異性介助は行っていない。入浴中は普段聞けない話を聞く機会ともなり、利用者との会話を大切に支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	リビングや食席で傾眠されている時は声掛けし休息出来るよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが服用している薬は把握できているが副作用の等の理解にまでは至らず、職員がいつでも確認できるようリストを綴っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	衣類やシャツなど畳める方には一緒にして頂き、役割として支援している		

グループホーム ふるさと

自己評価	外部評価	項目	自己評価(青い鳥ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期受診で戸外に出る他はなかなか外出に至っていないが、散歩出来る季節には声掛けし施設周辺を散歩出来る様支援している	散歩は遊歩道や町内、山側の公園周辺を散歩し、伊達時代村での花見、樽前アルテンの景色を楽しみながらの昼食を摂っている。RUN伴や笑顔の花咲く写真展の鑑賞、コミュニティーセンターでの盆踊り、他事業所合同の運動会に出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を管理できる方がいないため支援に至っていない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者から要望があれば家族などに電話を繋げたりしている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者にとって不快や混乱を招くようなことが無いよう配慮し、生活感を出しながら心地良く過ごして頂けるよう工夫している	共用空間は広く明るい作りで、ソファコーナーをいくつか設けて一人ひとりの居場所を確保したり、利用者全員がテーブルを囲んで食事ができるなど、ユニットごとに特色を出している。版画絵や節句の飾り、利用者の作品や写真が掲示されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	どの場所で過ごしたいか等たずねたりその時の気分を汲み取り、落ち着いて過ごして頂ける場所に誘導できるよう支援している		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みの家具や私物を持ち込んで頂き、使い慣れたものを使用する事で居心地よく過ごして頂けるよう工夫している	馴染みの家具や電化製品、大切な品々が持ち込まれている。出窓はラジオや小物を置くなど活用している。毎月の手芸教室で作った箸袋や季節果物の押絵の壁掛け、籠飾りなど沢山の作品が飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ユニット内を自由に動く事が出来るよう利用者の妨げになるような物は移動し安全に過ごせる工夫を心掛けている		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173600719		
法人名	株式会社ふるさとコミュニティ		
事業所名	グループホーム ふるさと (憩いユニット)		
所在地	北海道苫小牧市豊川町2丁目1番2号		
自己評価作成日	平成31年1月31日	評価結果市町村受理日	平成31年3月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・外出支援を通して地域との繋がりが途絶えることなく、認知症になっても安心して日常生活を送って頂けるよう援助し、各々のレベルに沿った自立支援に努めている。又、実習生の受け入れや施設見学、町内会の参加、小学生とのふれあいを通して認知症の理解を深める事が出来る様努めている。</p>

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigyosyoCd=0173600719-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成31年2月27日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(憩いユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念・各ユニット理念をみえる所に掲げ共有しそれに沿った支援が出来るよう実践に繋げている		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	季節ごとに町内会の行事や地域との交流を図っている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等を通して認知症の理解や支援の方法を地域に向けて少しずつ活かせるようになってきている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度実施し取り組み状況等の報告や話し合い・意見交換を行いサービスの向上に努めている		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者と連絡を密にし、サービスの取り組みなどを相談し、協力関係を築くようにしている。又、2ヶ月に1度の運営推進会議には地域住民、市の職員、包括支援センターの方にも参加して頂き取り組んでいる		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化を定期的に取り組み実施し、施錠を含めて身体拘束をしないケアに全職員と共に取り組んでいる		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入職時に研修の時間を設け、学ぶ機会を持ち全職員で虐待防止に努めている		

グループホーム ふるさと

自己評価	外部評価	項目	自己評価(悪いユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	一部の職員のみで、まだ全職員が学べる機会を持っておらず、今後は全員が学んでいけるよう努めたいと考えている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、時間をかけ説明を行いご本人やご家族の不安や要望、疑問点などを聞きながら、理解と納得を図るよう努めている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱の設置、外部の相談窓口を契約時に説明している。又、意見や要望は届いておりその都度職員間で共有し運営に反映させることが出来ている		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議等を通して職員からの意見や提案、要望を聞く事ができていてその都度で対応し反映させている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全職員が向上心を持って働けるよう話し合いの場を設け、職場環境や条件の見直し等に努め、働きやすい環境を心掛けている。又、個々の努力や勤務状況等も把握できている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部・外部での研修の参加を促し、学べる機会の確保に努め職員を育てる為の取り組みを行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員が同業者と交流できる機会はなかなか取れていないが、今後の課題のひとつとし、質の向上に取り組んでいけたらと考えている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(憩いユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	十分な時間と情報を元に、ご本人が困っている事等、要望を聞き安心して頂けるよう関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期に限らず、その都度で耳を傾けご家族様との連携を密にし、意見・要望・助言など聞ける時間を設け県警づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期の情報を元に必要な支援の見極めとご本人やご家族から要望などを聞き、他のサービスも含め必要か否かを検討し対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	決して介護していると考えず、家族、親子のような関係づくりと共に支え合い暮らしを共にする関係が築けるよう、職員ひとりひとりが意識し努めている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族との関係が途切れる事のない様大切にしながら、状態や思いを共有し一緒に支えていける関係が築けるよう努めている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方や地域との関係が途切れぬよう外出支援に努め、友人知人の面会や友人宅に行くなどの支援に努めている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりが孤立する事のない様利用者同士が関わり合える関係を築く事ができていて、レクレーションを楽しんだり、気の合う者同士と一緒に過ごす等関係性を把握し支援している		

グループホーム ふるさと

自己評価	外部評価	項目	自己評価(憩いユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や退去になった方々、御家族を含め関係性は大切にしながら、相談や経過をフォロー出来て居る事で関係を継続する事が出来ているが、職員との関係は入院時の面会にとどまっている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いを把握する為、関りを密に図り、少しでもその人の望む暮らしが遅れる様出来る限りで努めている。又、医師の疎通が困難な方は表情や動きを観察し対応できている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴、馴染みの暮らし等一人ひとりの情報はファイルに綴り、いつでも閲覧できるようになっており、スタッフ間で共有し把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの現状の把握に努め共有し、その方の有する力が発揮できるよう支援。出来る事はして頂き自立支援に努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、御家族に意向を聞き介護計画に反映させ作成しているが、新人が多いこともありチーム全体でモニタリングには至っていない		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に記録し情報を共有しながら実践に反映させているが、新人が多いこともあり存分に活かす事ができていない		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の変化に対応できるよう、その時々ニーズに合った支援や、既存のサービスに捉われない柔軟なサービスの多機能化に取り組めるよう努めている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎月傾聴ボランティア、手芸教室と必要に応じて知己の方々の受け入れで一人ひとりが暮らしを楽しむことができる様支援に取り組んでいる		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への理解と納得は得ている。事業所との関係も築く事ができていて適切な医療が受けられるよう支援している。又、御家族対応で他院を利用されている方もいる		

グループホーム ふるさと

自己評価	外部評価	項目	自己評価(憩いユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師との情報はアセスメントシートの他に医療に関する別紙を使用して個々の状態を共有する事が出来ていて適切な対応が出来る様努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との情報交換や相談に努め関係を密にし利用者が安心して治療出来る様対応している。又、関係者との関係づくりにも努めている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化や終末期に向けた方針、看取りについても説明しており、入居後その状態に使った段階で再度話し合いを行い、御家族・ご本人の意向に沿ったケアが選択出来るよう努め、支援に取り組んでいる		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	このような事態に備えての特別な訓練は具体的に行っておらず、実践には欠けている。全職員に実践力を身につけられるよう今後取り組んでいかなければと考えている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼・夜間想定で避難訓練は行っていて、地域との協力体制も築く事は出来ているが全職員が十分身につけているまでには至っていない		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、プライバシーを損ねる事のないように声掛けする等注意して対応している。又、不適切なケアについても話し合いをし職員一人ひとりが意識し努める様心掛けている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ここにあったケアを通して自己決定出来る様声掛けを行い、支援に努めている。又、介護計画に載せて日々支援に努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活全般で常に利用者優先で支援に努めている。又、一人ひとりのペースを大切にその人がその人らしく日々の生活を送る事が出来る様希望に沿って支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自信で決めるのが困難な方には、その時々で場面で提案し決定しやすい様配慮しながら支援に努めている		

グループホーム ふるさと

自己評価	外部評価	項目	自己評価(憩いユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食は必ず職員も一緒に食べ、食事の時間を楽しむことが出来ていて、日々状況に応じて盛り付け、味付け、下膳、配膳、片づけなど一緒に行う事が出来ている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	量、栄養は外部より委託している為、バランスの確保が出来ている。水分量はここによりバラつきがあるが一人ひとりに合った対応で好みを聞くなど少しずつこまめに提供し一日の水分確保に努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立されている方は声掛け、見守りでほぼ出来ていて、介助が必要な方は一人ひとりに合った口腔ケアを行っている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの力や排泄パターンを把握し、適度な声掛けと必要最小限の介助のみで自立支援に努めている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を活用すると同時にここに確認しながらパターンを把握し主治医に相談しながらここにに応じた予防に取り組んでいる		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴を楽しんで頂く為、時間や曜日に捉われず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて支援している		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	介助が必要な方は、時間や状態に応じて休息出来る様支援し、自立されている方々はご本人の気の向くまま自由に休息をとって頂けるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが服用している薬は把握できているが、副作用まで理解出来ている職員は少ない為薬リストはいつでも確認できるようになっている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの能力を活かし、役割や楽しみごと等、メリハリのついた日々を過ごしレクリーションの参加など気分転換が図れる様支援している		

グループホーム ふるさと

自己評価	外部評価	項目	自己評価(憩いユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に沿った支援が来ている。又、ご本人の希望を把握し家族や地域に協力を得ながらどこでも出掛けられるよう外出支援に努めている		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの力に応じ、金銭を所持したり使えるように支援していたが、現在は所持できなくなった為、買い物支援の際は立替金でご本人に支払って頂いている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持している方も居られ、そうでない方は申し出により電話を使用する事が出来ている。又、手紙やはがき(年賀状)のやり取りもできる様支援している		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、職員と利用者が共同作業で季節感を取り入れるなど工夫して作品を飾る等し居心地よく過ごせるよう努めている。又、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激を与える事が無い様配慮している		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用の食卓テーブルの他、ソファを置いたり時々模様替えをしながら利用者同士で思い思いに過ごせるよう工夫している		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	あえて収納は造らず、馴染みのものを持ち込んで頂き、混乱を防ぎ居心地よく過ごせるよう、本人や家族と相談し工夫している		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの能力を把握し自立した生活を送れる様工夫し、入所間もない方も安心して過ごせるようトイレ等には貼紙を使用するなど工夫している		

目標達成計画

事業所名 グループホーム ふるさと

作成日：平成 31年 3月 15日

市町村受理日：平成 31年 3月 18日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	非常災害時のマニュアルを基に勉強会を行い、その際に地震を想定しケアの場面ごとに、それぞれの利用者の対応について話し合い、内容をマニュアルに追加して定期的に確認する事を期待したい。	非常災害時のマニュアルを基に勉強会を定期的に催し、全職員が緊急時でも対応できる様にしていく。火災に限らず非常時(地震・水難等)の対応に備える。	会議を通して話し合い、災害時は速やかに適切な対応が出来るよう入居者一人ひとりの状態を把握した上で、個別に対応策をリストにして作成し職員間で共有し合い定期的に確認し状態に応じて修正を行っていく。	1年
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。